

2019年11月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 11月えんだより

11月聖句 「同じ愛を抱き、心を合わせて、思いを一つにして」

＜フィリピの信徒への手紙第2章2節＞

涼しい風が吹き、秋らしい季節となりました。体を動かすには絶好の時を迎え、子ども達も園外に出かけることが更になくなりました。一方、ご存知の通り台風における災害は甚大で、目を覆うような被災地の状況に心が痛みます。「災害は、明日は我が身」と捉えて、園における安全教育もさらに徹底していくと共に、被害に遭われました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、日本で開催されていますラグビーワールドカップは、ご家庭でもご覧になられている方が多いのではないのでしょうか？子ども達の話のなかにも話題になるぐらい、ラグビー日本代表の皆さんの活躍は、感動いたしました。体格や出身も違う選手たちが、同じ目的をもって、心を合わせて戦う勇姿は、自らの身に置き換えてみて、心打つところが大いにあった方もいたと思います。

この「心を合わせる」ことは本当に難しいことです。「共感」という言葉もよく使われますが、隣の方と同じ思いになることは、家族でも難しく、共感的に理解はできたとしても、全く同じ思いになることは困難であろうと思います。スポーツにおいても、誰かが全体のために犠牲を強いられ、我慢をしているかもしれません。それほど心を合わせて、思いを一つにすることは簡単なようにみえて難しいのではないのでしょうか。

園では子ども達とお祈りをします。「心を合わせて祈りましょう」と言いますが、言葉で発することはできますが、その意味を理解して、思いを一つにすることはとても難しいことです。自分のために祈るのではなく、休んでいるお友達が早く良くなるようにとか、聖書の話から、自分の心が改められますようになど、人間の利己心や虚栄心ではない、利他的な、徳を高め、自らを振り返る思いを幼い頃に感じて欲しいと願っています。

最近の文献では、ストレス社会を生き抜く力としても、幼少期の非認知能力が注目されています。ソフトスキルとも言われますが、数字で測れない、勤勉性、協調性、好奇心、利他性、自己肯定感、想像力、やり抜く力、コミュニケーション力、共感力、忍耐力等、総合的な人間の力を意味します。この目に見えない神様からいただいた大切な心と体を、園の生活の中で、互いの心の交わりを通して、しっかりと身につけていけるようにしていきたいと思います。

末筆になりますが、保育園連盟の署名活動や運動会のアンケートのご協力もありがとうございました。感謝申し上げます。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

11月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *秋の実りを喜んで味わう *保育者の祈る姿を通して、思いを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> *秋の実りに感謝して、味わう *色々な人の働きを心にとめる *気持ちや考えを伝え合い、分かち合いながら友だちと過ごす。
讃美歌	おほしがひかる	あなたの平和の 聖歌集増補版1